

ヤマボウシ（ミズキ科ヤマボウシ属）という木をご存じでしょうか。森林レンジャーとヤマボウシは何かと縁があるようです。4年前の7月に深沢の真光院の駐車場の隅に、あきる野市と縁の深い栗原市（友好姉妹都市）の中学生と交流事業として植樹しました。たまたまこちらが選んだヤマボウシは栗原市の市の木ということで、話がトントン拍子に進みました。移植の難しい時期でしたが雨の中の植樹ということもあり、枯れることなく育っています。

昨年秋には、瀬音の湯の駐車場脇の山の斜面に大苗（250センチ弱）を植えました。

この時は、「みどり東京、温暖化防止プロジェクト」の一環として、都内からの20数人の参加者と城山を登り、その後瀬音の湯駐車場の近くで植樹しました。

こちらも順調に根付いており、この春は、きれいな新緑で山の斜面を飾っています。残念ながら花芽が確認できていないので、花は来年以降になると思います。

ヤマボウシは初夏に白い可憐な花（じつは白色のガクで花は中心部の緑色の部分）で私たちの目を楽しませてくれます。その後、受粉すると実が付きまします。この実は甘く、人が食べてもおいしく、小鳥たちにも人気が高いようです。また、落下した実は小型の哺乳類（アカネズミやタヌキなど）が食べるようです。

昔から茶花と言われ、茶室の坪庭に使われたりするため、庭園木として園芸種と勘違いされている方もいますが、もともと、落葉広葉樹の高木で自然の中で生育する樹木です。あきる野でもわずかですが自生しています。

花は人を楽しませ、実は野生生物の腹を満たすような植物が増えていくことは、豊かな「生物多様性」を維持する上で重要な要件と考えます。

皆さんも機会があれば、真光院や瀬音の湯でヤマボウシを探してみてください。（杉野）



ヤマボウシの展開した新芽